

## LUI「公募研究 B」 成果報告書

### 1. 申請者名・所属先：

袁輪顕量 人文社会系研究科・文学部 インド哲学仏教学研究室

### 2. 国際研究集会の名称及び概要

第4回東アジア仏教大学仏教会議

### 3. 開催場所

オンライン開催 (Zoom)

### 4. 開催日時

2021年3月14日(日) 13時~21時

### 5. 国際研究集会開催の趣旨・目的 (800字程度)

アジアに共通の宗教は仏教である。この仏教を対象に研究を進めている東アジア地域の4大学の教員が連携し、研究、教育の面で交流を深めることを目的として東アジア仏教大学仏教会議を定期的に開催してきた。この会議は2014年に韓国の東国大学の仏教研究者金鐘旭教授を中心に4大学の教員、東京大学では下田正弘教授、北京大学では李四龍教授、台湾大学では蔡耀明教授の合議によって創始され、今回で4回目を迎える。これらの4大学は2年ごとに会場を移して春に会議を開催してきた。これまで、韓国、中国、台湾を会場に行われ、今回は東京大学が世話大学になり、日本での会議が予定された。

コロナの影響で、当初2020年4月に予定されていたものを延期し、2021年3月14日、会期を1日に短縮してオンラインでの開催となった。今回の会議では「方法論としての東アジア」という統一のテーマを決め、それぞれの大学の教員がそれぞれの専門分野から研究発表を行った。参加する東アジアの4大学の研究者たちには、それぞれの地域の文化伝統に根ざした仏教研究を行いながらも、昨今の研究状況に鑑みて、研究方法を新たに構築し直す必要があるのではないかという共通の問題意識が存在する。今回の会議では、こうした新たな課題を共有し、そうした課題へのアプローチとしての東アジアについて最新の知見を交えた研究交流を行うことによって、今後の仏教研究にとって多くの重要な視座を再確認する貴重な機会となった。

また、この会議には、開催地において仏教研究を進めている大学院生や若手の研究者からも多くの参加があった。東アジアにおいて仏教を研究する有力大学の研究者と日本国内の若手研究者が交流する貴重な情報交換の場としても大きな役割を果たすことができた。

## 6. 国外招聘研究者を含む主な講演者・参加者（氏名・所属等）

日本： 下田正弘（東京大学、インド哲学仏教学研究室）

一色大悟（東京大学、インド哲学仏教学研究室）

Charles Muller（武蔵野大学）

韓国： Sung-Eun Thomas Kim（東国大学校仏教学院）

Kim Eunyong

台湾： Yao-ming Tsai（国立台湾大学、哲学研究室）

中国： Li Silong（北京大学）

Zhao You（北京大学）

英国： Matthew Orsborn（Faculty of Oriental Studies, オックスフォード大学）

## 7. 参加人数

約 50 名